

Veritas™ Desktop and Laptop Option 9.3.1

DLO インストールおよび設定のクイックリファレンスガイド

Veritas Desktop and Laptop Option : DLO インストールおよび設定のび設定のクイックリファレンスガイド。

本文書内で説明されているソフトウェアは、本使用許諾契約の下で提供され、本使用許諾契約の条項に従ってのみ利用が許可されます。

免責事項

Copyright (c) 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved. Veritas および Veritas のロゴは、Veritas Technologies LLC、または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

この Veritas 製品には、サードパーティ（「サードパーティプログラム」）の所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで利用できます。ソフトウェアに付随する本使用許諾契約は、当該オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスによって生じる可能性があるお客様の権利または義務に影響を与えるものではありません。サードパーティプログラムについての詳細は、この文書のサードパーティの商標登録の付属資料、またはこの Veritas 製品に含まれる TPIP Readme ファイルを参照してください。

本 Veritas 製品には、別のライセンスの対象となるオープンソースおよびその他のサードパーティの資料が含まれている場合があります。以下で該当するサードパーティの通知を参照してください：

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements/>.

本文書に記載されている製品は、使用、複製、配布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて配布されています。本文書のいかなる部分も、Veritas Technologies LLC とライセンスから事前に文書による許諾を得ることなく、無断で複製することはできません。

本文書は「現状のまま」提供されるものであり、Veritas Technologies LLC は、商品価値を有すること、お客様の特定の目的にかなうこと、権利を侵害していないことに対する暗黙的な保証を含む、明示的または黙示的な条件、表明、および保証すべてから免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC およびその関連会社は、本文書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。Veritas は事前の通知なく本文書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その他の後継規則の規定により制限権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示、開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 East Middlefield Road
Mountain View, CA 94043
<http://www.Veritas.com/>

はじめに	5
DLO 9.3.1 の新機能	5
自動ユーザー検知のための Active Directory のスキャン	5
カスタマイズ可能な通知	5
内蔵の試用版ソフトウェアライセンス	6
DLO コンポーネントのシステム要件	7
Veritas DLO のダウンロード	9
Veritas DLO をインストールするためのシステム要件	10
Veritas DLO のインストール	20
Veritas DLO の設定	25
DLO サーバのセットアップの設定手順	26
手順 1 - DLO 管理サーバに重複排除サーバを追加します	26
手順 2 - DLO ストレージロケーションを追加します	27
手順 3 - プロファイルを作成、設定します	30
手順 4 - プロファイルを作成するユーザを設定する	30
インターネット上のバックアップ (BOI) を設定するための手順	33
手順 1 - DLO エッジサーバのパブリック IP を登録する	33
手順 2 - SSL 証明書を登録したパブリック IP にマップします。	34
手順 3 - DLO エッジサーバおよび IO サーバを DLO ストレージロケーションにマップする	34
手順 4 - DLO エッジサーバへの接続状態をテストする	35
手順 5 - プロファイルで BOI オプションを有効にする	36
デスクトップエージェントの配備	37
クライアントマシンからデスクトップエージェントをプルインストールする	37
Web 復元ページからデスクトップエージェントをプルインストールします	37
デスクトップエージェントのプッシュ配備	38
バックアップと復元の検証	40
バックアップジョブの設定	40

バックアップ検証	40
バックアップ状態レポートの読み方	42
復元の検証	43
DLO 文書の参照リンク	45

はじめに

Veritas™ デスクトップおよびラップトップオプションは、ユーザー中心のバックアップソリューションです。組織内の Windows および Mac のデスクトップやラップトップのバックアップや復元のために、柔軟な実装と一元管理を提供します。この非常に拡張性の高いソリューションは、配布可能なコンポーネントを備え、単一のサイトでも、複数のサイトでも、リモートオフィスがあっても、どんな規模の環境にも最適で、ユーザーの最新ファイルも保護することが可能です。

内蔵機能には、Outlook PST や NSF ファイルの内容を認識した重複排除を備えたソース側重複排除、オフラインとオンライン、およびインターネットモード上のバックアップの切換を可能にする、非侵入型バックアップエクスペリエンスのための自動ネットワーク選択、エージェント、Web ブラウザ、およびモバイルアプリケーション経由で提供される自動復元機能、ランサムウェア保護のためロールバック機能、それに詳細な自動レポートが挙げられます。

本クイックリファレンス文書では、DLO 環境を設定して円滑な製品評価プロセスを容易にするための基本的なステップについて説明します。。管理者が本番環境用に製品を実装する場合は、DLO で可能な各種実装方法について理解するため、[このリンク](#)を参照し、最新バージョンの DLO 管理者ガイドおよびベストプラクティス文書を確認してください。

DLO 9.3.1 の新機能

ここでは、このリリースに搭載されている新機能について簡単に紹介します。

自動ユーザー検知のための Active Directory のスキャン

DLO を使うと、管理者は、Active Directory の自動スキャンを実行する機能によって、組織を辞めたユーザーを特定し、削除できるようになります。

カスタマイズ可能な通知

DLO では、管理者はエンドユーザー宛ての電子メール通知にカスタムメッセージを添付するオプションのある、直観的な通知 UI を使用できます。

内蔵の試用版ソフトウェアライセンス

DLO は、内蔵された試用版ソフトウェアのライセンスを提供しており、製品評価が容易になりました。

DLO コンポーネントのシステム要件

Veritas DLO は、さまざまな実装が可能な柔軟性を備えるよう設計されています。ただし、DLO の計画時には、DLO の効率とパフォーマンスに影響を及ぼす要因について考慮する必要があります。

Veritas DLO サーバには次のコンポーネントがあります。

1. **DLO 管理サーバ:** 管理アクティビティを担当するサービス。
2. **DLO 管理コンソール:** 管理者がエンドポイントのバックアップ環境を構成、管理、および監視するためのグラフィカルユーザーインターフェース。
3. **DLO メンテナンスサーバ:** 保管場所でのリビジョン管理およびファイルグルーミング操作を担当するコンポーネント。
4. **重複排除サーバ:** グローバルハッシュテーブルを維持して重複排除を容易にするアプリケーションサーバ。デスクトップエージェント上の一意かつ重複したデータを識別するのに役立ちます。
5. **DLO ストレージ:** エンドポイントデータが保存されるバックアップ先。DLO 保管場所と重複排除ストレージロケーションで構成されています。
6. **DLO データベース:** アプリケーション情報を保持するコンポーネント。DLO DB と重複排除 DB で構成されています。
7. **DLO IO サーバ:** 企業ネットワーク内に存在するアプリケーションサーバ。インターネット経由で DLO リソースにアクセスできます。
8. **DLO エッジサーバ:** アプリケーションサーバのフロントエンド用にインターネットに公開されるコンポーネント。

IO サーバおよびエッジサーバのコンポーネントは、オプションコンポーネントであり、VPNなしのバックアップを可能にする、インターネット上のバックアップ (BOI) 機能を選択した場合のみ設定する必要があります。

DLO サーバコンポーネントは、同じコンピュータにスタンドアロンの設定としてインストールするか、または異なるサーバ機の間で分散環境の設定としてインストールすることができます。本文書内では、これらのコンポーネントがすべて同じハードウェア上に存在するスタンドアロンの設定について説明します。

DLO およびそのコンポーネントのVMware ESXi および Hyper-V サーバへのインストールがサポートされています。管理者は、Microsoft AzureおよびAmazon Web Services (AWS) クラウドにすべての DLO サーバコンポーネントをインストールできます。

DLO は、サーバドメインとエージェントドメイン全体で信頼が確立されていないドメイン信頼独立型セットアップにもインストールできます。詳しくは、 [ドメイン信頼独立型ソリューションの文書をこちらで参照してください。](#)

DLO サーバのセットアップシステム要件:

非 BOI および BOI モードの場合、スタンドアロン設定用ハードウェア構成は以下の通りです。

ユーザー	管理サーバ、メンテナンスサーバ、データベース、重複排除サーバ (エッジサーバと IO サーバを除く)。		管理サーバ、メンテナンスサーバ、データベース、重複排除サーバ、エッジサーバ、IO サーバ	
	CPU	RAM	CPU	RAM
<=1000	64 ビットクアッドコア Xeon、または互換品	8 GB	64 ビットクアッドコア Xeon、または互換品	12 GB

DLO サーバ設定用の最新のソフトウェア構成は次の通りです。

OS バージョン	プラットフォーム
Windows 2016 Server (Standard、Data Center)	x64
Windows 2012 R2 Server – Update 2919355 (Standard、Data Center) 使用	x64

デスクトップエージェント システム要件

CPU	RAM	OS バージョン
32/64ビット Pentium、Xeon、AMD に互換性のあるプロセッサ	2 GB	Windows 10、8.1、8 Mac 10.13、10.12、10.11、10.10、10.9。

対応オペレーティングシステムについては、Veritas DLO 9.3 ソフトウェア互換性一覧表の文書を[こちら](#)で参照してください。

Veritas DLO のダウンロード

管理者は、試用版ダウンロードリンクから最新の使用可能なバージョンをダウンロードできます。<https://www.veritas.com/content/trial/en/us/desktop-and-laptop-option.html>既に Veritas DLO をご利用のお客様の場合、管理者は MyVeritas の Web ページから入手できます。

注：DLO 9.3.1 以降のバージョンでは、製品評価のために60日間の試用版ライセンスが組み込

まれています。

1. 該当するファイルを一時ディレクトリにダウンロードします。

Veritas_Desktop_and_Laptop_Option_Y.Y_xxxxxx_32-bit.zip

Veritas_Desktop_and_Laptop_Option_Y.Y_xxxxxx_64-bit.zip,

Y.Y は製品のバージョン番号、xxxxxx はビルド番号を表します

2. ファイルを抽出するには、.zip ファイルをダブルクリックします。

Veritas DLO をインストールするためのシステム要件

ここでは、DLO セットアップをインストールおよび管理するための前提条件について詳しく説明します。実際のインストールを開始する前に、これらの前提条件が満たされており、インストールプロセス中に問題がないことを確認してください。

項目	説明
ドメインおよび Active Directory	DLO 管理サーバ、DLO重複排除サーバ、DLO エッジサーバ、DLO IO サーバ、DLO ストレージロケーションは、Windows ドメインまたは Active Directory に存在する必要があります。Desktop Agent を実行するコンピュータは、Windows ドメインまたは Active Directory の外部に存在していてもかまいませんが、DLO 管理サーバやストレージロケーションにアクセスするには、ドメインやディレクトリの認証が必要です。 <i>注：DLO 9.2 以降では、DLO サーバとエージェントが異なるドメインにあるドメイン信頼関係独立アーキテクチャーに DLO を導入できます。</i> <i>詳しくは、ドメイン信頼独立型ソリューション文書をこちらで参照してください。</i>
DLO のインストールと管理に必要なユーザー権限	以下は DLO コンポーネントのインストールと管理に必要なアカウントです。 次のドメインユーザーとドメイン管理者のアカウント： Veritas DLO 管理サーバ: このユーザーは DLO 管理サーバマシン、ストレージサーバおよびSQLサーバのローカル管理者権限が必要です。このユーザーは DLO 管理サーバマシンのレポジトリ

	への読み取りおよび書き込みアクセス権が必要です。 • Mindtree StoreSmart重複排除サーバサービス: このユーザーは DLO 管理サーバマシンのローカル管理者権限が必要です。このアカウントは DLO 管理サーバマシンのアカウントと同じである必要があります。 • SQL サーバ(インスタンス): このユーザーは DLO 管理サーバ、SQLサーバマシンおよびストレージサーバマシンのローカル管理者権限が必要です。 • SQL サーバブラウザ: このユーザーは SQL サーバマシンのローカル管理者権限が必要です。 • Veritas DLO Web サーバサービス: このユーザーは DLO 管理サーバマシンのローカル管理者権限が必要です。このアカウントは DLO 管理サーバマシンのアカウントと同じである必要があります。 次のローカルシステムアカウント: • Veritas DLO Edge Server サービス • Veritas DLO メンテナンスサーバ 次のドメインユーザーアカウント: • 重複排除ストレージロケーションへのアクセス。この低権限レベルのドメインユーザーアカウントは「重複排除ストレージロケーションのアクセスクレデンシャル」としても知られ、デスクトップエージェントによって「重複排除ストレージロケーションにアクセスするために使用されます。管理者権限を持つユーザーアカウントを、重複排除ストレージロケーションへのアクセスクレデンシャルアカウントとして設定することはできません。管理者はこのユーザーアカウントのパスワードが頻繁に期限切れにならないようにしてください。パスワードの有効期限が切れると、そのドメインユーザーのパスワードをリセットしてください。このユーザーは、ドメインコントローラーグループのポリシーオブジェクト内で設定された「ローカルログオンを許可」ポリシーを持つ必要があります。
DLO エージェント	• デスクトップエージェントマシンにログオンしたユーザーが重

トユーザーのユーザー権限	重複排除ストレージロケーションユーザーとして偽装して重複排除ストレージロケーションに重複データを書き込むには、偽装権限が必要です。 • ボリュームシャドウコピーサービスのローカルシステムアカウントが必要です。バックアップ状態レポートを生成するためにバックアップの統計を提供するには、このサービスを立ち上げ、実行しておく必要があります。
データベースの選択	デフォルトで、DLO は SQL Server 2014 Express SP2 の固有のインスタンスをインストールします。DLO は、既存の SQL Server インスタンスを使用するように、手動で設定可能です。 DLO データベースサービスには、少なくとも 6GB のハードディスク空き容量が必要です。 対応バージョンについては、<i>Veritas DLO 9.3 ソフトウェア互換性一覧表</i> の文書をこちらで参照してください。 DLO データベースは、次のいずれかのオプションとしてインストールできます。 オプション 1: ローカルの SQL Express 2014 SP2 インスタンス 前提条件: • DLO データベースサービスには、少なくとも 6GB のハードディスク空き容量が必要です。 詳細: • デフォルトで、DLO は SQL Server Express エディションの固有のインスタンスをインストールします。 • 32 ビットマシンでは、DLO データベースと Dedupe データベースは、C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10_50.DLO に配置される新しいローカル SQL Express 2014 SP2 インスタンスに保存されます。 • 64 ビットマシンでは、DLO データベースと Dedupe データベースは、C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\MSSQL10_50.DLO に配置される新しいローカル SQL Express 2014 SP2 インスタンスに保存されます。

	オプション 2: 既存の SQL ローカルサーバインスタンス 前提条件: • 既存のローカル SQL サーバインスタンスでは、SQL サーバがインストールされているコンピュータ上で、名前付きパイプと TCP/IP を有効にする必要があります。名前付きパイプと TCP/IP が有効になったら、SQL サーバと SQL サーバのブラウザサービスを再始動します。コンピュータのブラウザサービスが実行中であることを確認します。 • SQL サービスがドメイン管理者のクレデンシャル下で実行されていることを確認し、SQL サーバのインストールに使用されたものと同じユーザーアカウントのクレデンシャルを提供します。これを実行しないと、データベースの接続に失敗します。 詳細: • DLO データベースと Dedupe データベースは、このコンピュータ上の、既存のローカル SQL Server インスタンスに格納されます。表示されているリストからインスタンスを選択します。C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\MSSQL10_50.DLO. オプション 3: 既存のリモート SQL ローカルサーバインスタンス 前提条件: • 既存のリモート SQL サーバインスタンスでは、SQL サーバがインストールされているコンピュータ上で、名前付きパイプと TCP/IP を有効にする必要があります。名前付きパイプと TCP/IP が有効になったら、SQL サーバと SQL サーバのブラウザサービスを再始動します。コンピュータのブラウザサービスが実行中であることを確認します。 • SQL サービスがドメイン管理者のクレデンシャル下で実行されていることを確認し、SQL サーバのインストールに使用されたものと同じユーザーアカウントのクレデンシャルを提供します。これを実行しないと、データベースの接続に失敗します。 詳細: • DLO データベースと Dedupe データベースは、リモート SQL Server インスタンスに格納されます。SQL がインストールされて
--	---

	いるコンピュータの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
ファイアウォール	DLO はファイアウォール環境で機能するように設計されています。DLO Desktop Agent は、企業ネットワーク、またはプライベートのインターネット接続によるインターネットによるバックアップ (BOI) モードのいずれかで接続されたエンドポイントにインストールできます。ファイアウォール環境での DLO サーバコンポーネントと DLO クライアントのポート構成の詳細は、次の 3 つの配備シナリオに対して定義されます。 • 非 BOI 配備: エンドポイントが常に組織の敷地内にあり、企業ネットワークで接続されている組織。 • 排他的 BOI 配備:: エンドポイントが常に企業ネットワーク外にあり、インターネット接続でのみ接続されている組織。 • 臨時的 BOI 配備: エンドポイントが臨時的に組織の敷地外にあり、その間インターネット接続を使用して接続されるが、それ以外は組織の敷地内で企業ネットワークで接続されている組織。詳細については、DLO コンポーネントのポート設定のセクションを参照してください。
証明書	これはインターネットによるバックアップ (BOI) 機能で必要です。BOI 機能を構成するには、信頼できる CA から入手した SSL 証明書が事前に必要です。この証明書はデスクトップエージェントがパブリック URL を利用して DLO エッジサーバと通信するのに必要です。ただし、製品評価の場合、BOI 機能の評価用として組み込み式の自己署名証明書が DLO インストーラーパッケージに含まれています。 <i>注 1 : 本番用に配備する場合は、信頼された CA から取得した SSL 証明書を使用することを推奨します。</i> <i>注 2 : Veritas DLO 9.3 はリリースで、管理者は複数のエッジサーバを構成できるようになり、地理的に分散されたリモートオフィスユーザーに最適なバックアップフローを確実に提供しています。複数のエッジサーバ DLO をセットアップする場合は、信頼できる CA から一意の証明書を取得し、DLO 管理コンソールで新しいエッジサーバを構成するときに、同じ証明書を提供する必要があります。</i>
リモートインストールの考慮事項	DLO 管理サーバと DLO Desktop Agent のリモートインストール: • コンピュータにプッシュインストールするには、インストール先のコンピュータの Windows ファイアウォールの例外リストで特

	定の項目を有効にする必要があります。有効にする必要がある項目は次の通りです。 ○ ファイルとプリンタの共有 ○ Windows Management Instrumentation (WMI) ○ リモートサービスの管理 ○ リモートレジストリサービス 詳しくは Microsoft Windows の文書を参照してくださいhttps://docs.microsoft.com/en-us/windows/ • Symantec Endpoint Protection (SEP) のバージョン 11.0 またはそれ以降を実行するコンピュータにプッシュインストールするには、ファイルとプリンタを共有するように SEP を設定する必要があります。ファイルとプリンタ共有機能はデフォルトではオフになっています。
その他の考慮事項	• DLO コンポーネントのインストールを可能にするには、最新のサービスパックがインストール済みである必要があります。 • WMI サービスは、DLO サーバコンポーネントがインストールされているすべてのマシンで実行されている必要があります。 • .NET 4.0 以降のバージョンをインストールする必要があります。 http://www.microsoft.com/en-in/download/details.aspx?id=17718 注 : Windows 2012/ 2012 R2 /2016 Server の場合、.NET 4.0 のインストールは必須ではありません。Windows 2012/2012 R2 Server には .NET 4.5、Windows 2016 Server には .NET 4.6 がそれぞれデフォルトでインストールされているからです。

DLO サーバコンポーネントのポート設定

プロセス	ポート	ポートの種類	非 BOI 配備	排他的 BOI 配備	臨時的 BOI 配備
DLO 管理サービス	3999	TCP または UDP	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO 管理サーバ	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO 管理サーバ	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO 管理サーバ
SQL サーバブラウザ	1434	UDP	ソース (アウトバウンド): DLO 管理サーバ DLO 管理コンソール DLO 重複排除サーバ 宛先 (インバウンド): SQL Server	ソース (アウトバウンド): DLO 管理サーバ DLO 管理コンソール DLO 重複排除サーバ DLO IO サーバ DLO エッジサーバ 宛先 (インバウンド): SQL Server	ソース (アウトバウンド): DLO 管理サーバ DLO 管理コンソール DLO 重複排除サーバ DLO IO サーバ DLO エッジサーバ 宛先 (インバウンド): SQL Server
SQL Server	1433 またはダイナミックポート	TCP	ソース (アウトバウンド): DLO 管理サーバ DLO 管理コンソール DLO 重複排除サーバ 宛先 (インバウンド): SQL Server	ソース (アウトバウンド): DLO 管理サーバ DLO 管理コンソール DLO 重複排除サーバ DLO IO サーバ DLO エッジサーバ 宛先 (インバウンド): SQL Server	ソース (アウトバウンド): DLO 管理サーバ DLO 管理コンソール DLO 重複排除サーバ DLO IO サーバ DLO エッジサーバ 宛先 (インバウンド): SQL Server
ファイル共有/ブラウジング	135-139、445	TCP または UDP	ソース (アウトバウンド): DLO 管理サーバ DLO 管理コンソール DLO 重複排除サーバ DLO メンテナンスサーバ 宛先 (インバウンド): 保管場所 重複排除ストレージロケーション SQL Server	ソース (アウトバウンド): DLO 管理サーバ DLO 管理コンソール DLO 重複排除サーバ DLO メンテナンスサーバ DLO IO サーバ DLO エッジサーバ 宛先 (インバウンド): 保管場所 重複排除ストレージロケーション SQL Server DLO 管理サーバ	ソース (アウトバウンド): DLO 管理サーバ DLO 管理コンソール DLO 重複排除サーバ DLO メンテナンスサーバ DLO IO サーバ DIO エッジサーバ 宛先 (インバウンド): 保管場所 重複排除ストレージロケーション SQL Server DLO 管理サーバ

プロセス	ポート	ポートの種類	非 BOI 配備	排他的 BOI 配備	臨時的 BOI 配備
重複排除ポート	8443	HTTPS	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ
重複排除ポート	8080	HTTP	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ
重複排除ポート	8009	AJP	NA	ソース (アウトバウンド): DLO エッジサーバ 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ	ソース (アウトバウンド): DLO エッジサーバ 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ
エッジサーバのポート	443	HTTPS	NA	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO エッジサーバ	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO エッジサーバ
エッジサーバのポート	90	HTTP	NA	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO エッジサーバ	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO エッジサーバ
IO サーバのポート	7080	HTTP	NA	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO IO サーバ	ソース (アウトバウンド): DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO IO サーバ
IO サーバのポート	7009	AJP	NA	ソース (アウトバウンド): DLO エッジサーバ 宛先 (インバウンド):	ソース (アウトバウンド): DLO エッジサーバ 宛先 (インバウンド):

				DLO IO サーバ	DLO IO サーバ
プッシュイン ストール用追 加ポート	135、103 7、 441、112 5	TCP	ソース (アウトバウンド): DLO 管理サーバ DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO クライアント	NA	ソース (アウトバウンド): DLO 管理サーバ DLO 管理コンソール 宛先 (インバウンド): DLO クライアント

DLO クライアントのポート設定

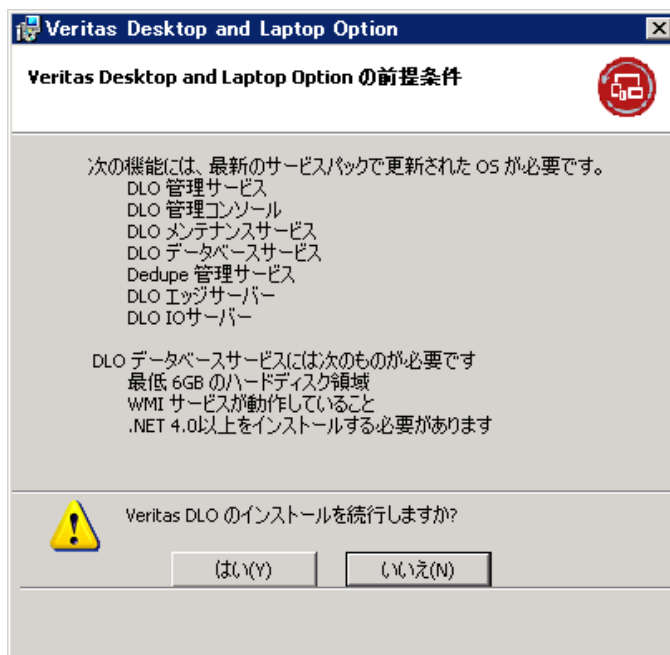
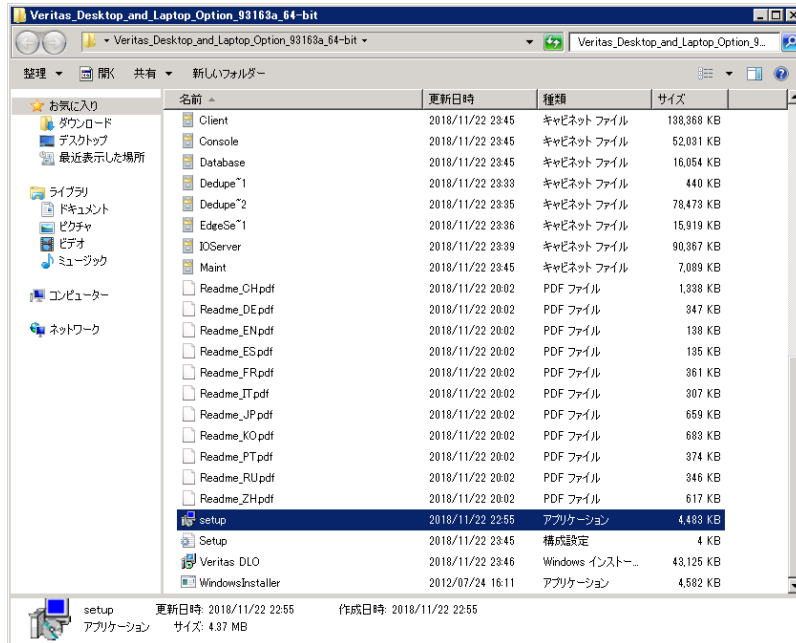
プロセス	ポート	ポート の種類	非 BOI 配備	排他的 BOI 配備	臨時的 BOI 配備
エッジサーバ のポート	443	HTTPS	NA	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント Web 復元マシン 宛先 (インバウンド): DLO エッジサーバ	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント Web 復元マシン 宛先 (インバウンド): DLO エッジサーバ
ファイル共有/ ブラウジング	135-13 9, 445	TCP ま たは UD P	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント 宛先 (インバウンド): 保管場所 重複排除ストレージローケ ーション	NA	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント 宛先 (インバウンド): 保管場所 重複排除ストレージローケ ーション
重複排除ポー ト	8443	HTTPS	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ	NA	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ
重複排除ポー ト	8080	HTTP	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ	NA	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント 宛先 (インバウンド): DLO 重複排除サーバ
SQL サーバブ ラウザ	1434	UDP	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント	NA	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント

			宛先 (インバウンド): SQL Server		宛先 (インバウンド): SQL Server
SQL Server	1433 または ダイナ ミック ポート	TCP	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント 宛先 (インバウンド): SQL Server	NA	ソース (アウトバウンド): DLO クライアント 宛先 (インバウンド): SQL Server

Veritas DLO のインストール

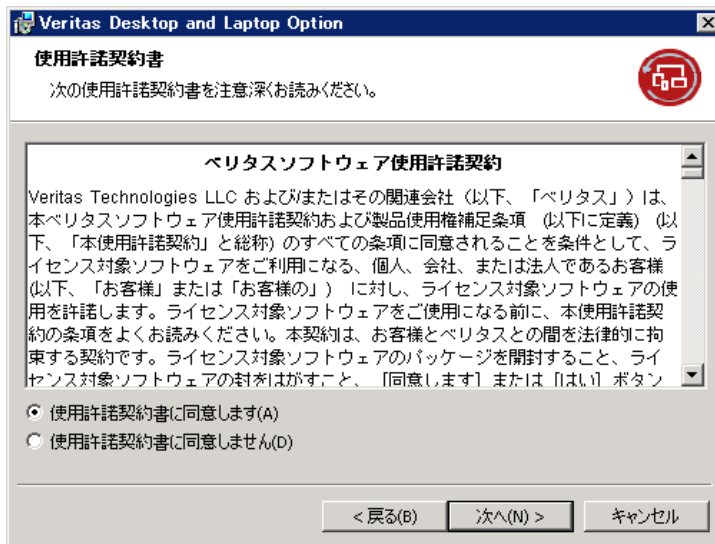
DLO セットアップのインストール手順は次の通りです。

1. setup.exe を実行して、インストールウィザードを起動します。



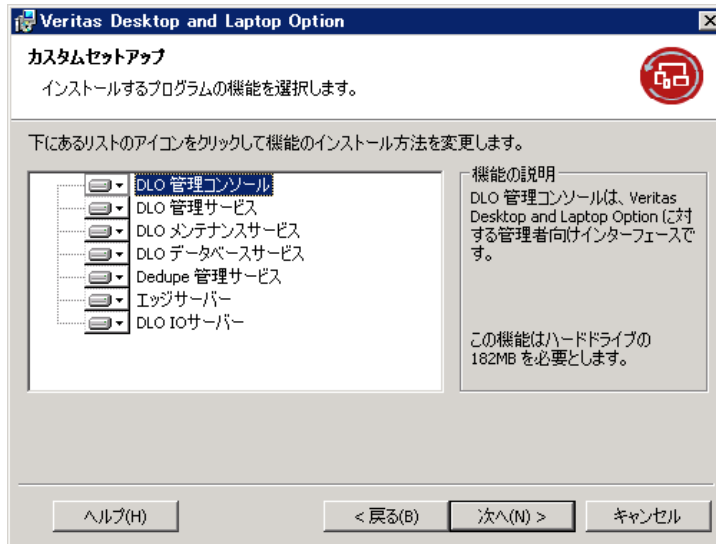
2. DLO の必要条件を閲覧し、DLO 前提条件ダイアログで[はい]をクリックします。

3. 使用許諾契約書を読んで、管理者が条件を許諾する場合は、[使用許諾契約書に同意します] を選択します。

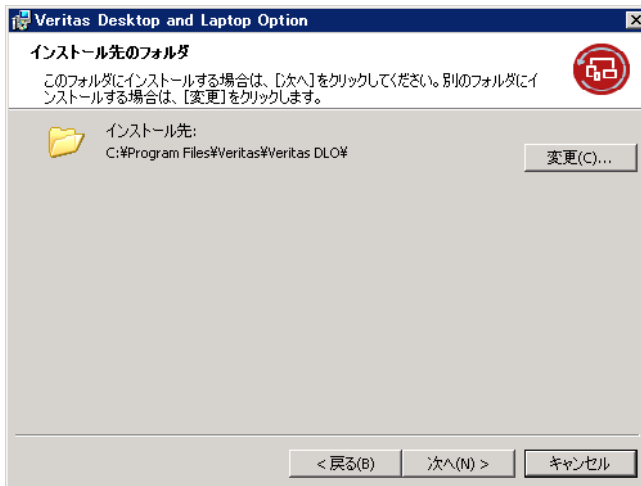


4. [次へ] をクリックします。
5. 管理者がコンピュータにインストールするコンポーネントを選択します。
- DLO 管理コンソール: DLO 管理コンソールをインストールします。
 - DLO 管理者サーバ: DLO 管理サーバをインストールします。
 - DLO メンテナンスサーバ: DLO メンテナンスサーバをインストールします。
 - DLO データベースサービス: DLO データベースと Dedupe データベースをインストールします。
 - 重複排除サーバ: Dedupe サーバをインストールします。
 - エッジサーバ: エッジサーバをインストールします。
 - IO サーバ: IO サーバをインストールします。

注：管理者は、DLO データベースサービスを除く各コンポーネントを選択して別々のコンピュータにインストールできます。DLO データベースサービスのみ選択してインストールすることはできません。DLO 管理サーバサービスと共にインストールできません。

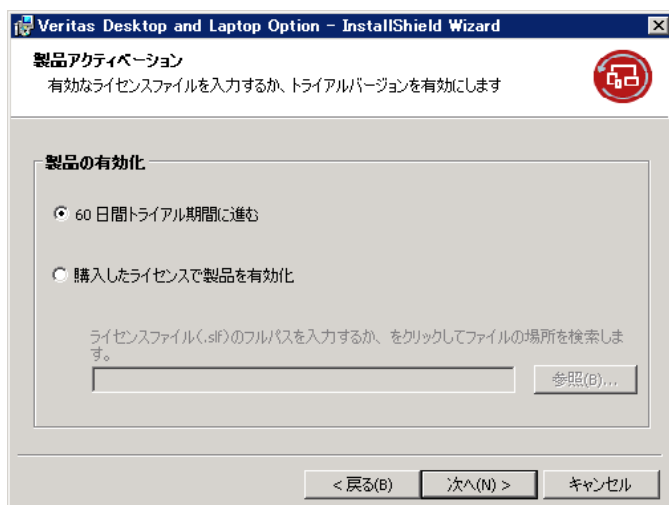


6. DLO を別のディレクトリにインストールする場合は、**[変更]**をクリックします。



7. 新しいディレクトリを選択し、**[OK]**をクリックします。
8. **[次へ]**をクリックします。
9. **[参照]**をクリックして、DLO ライセンスファイルを選択します。

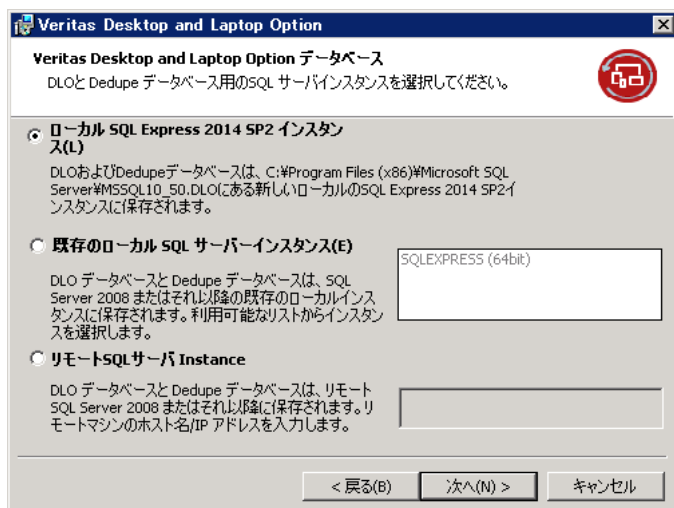
注：DLO は、製品評価用に、60 日間の試用版ソフトウェアライセンスを内蔵しています。



10. [次へ] をクリックします。

11. DLO データベースの次のオプションのいずれかを選択します。

注：ローカルまたはリモートの既存のデータベースインスタンスを使用する場合は、TCP/IP および名前付きパイプを有効にする必要があります。次のリンクを参照してください: <https://msdn.microsoft.com/en-us/library/ms191294.aspx>。



12. [次へ] をクリックします。

13. アカウントクレデンシャルを入力します。これは、DLO ストレージの作成に使用されます。

Veritas Desktop and Laptop Option

SQL サービスアカウント
ネットワークサーバー上に共有を作成できる SQL サービスアカウントのドメインユーザー名とパスワードを入力してください。

ドメイン ユーザー名(U)

パスワード(P)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

Veritas Desktop and Laptop Option

DLO 管理者アカウント
DLO 管理者として扱われ管理作業を行うアカウントの詳細を入力してください。

ドメイン ユーザー名(U)

パスワード(P)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

14. [次へ] をクリックします。

15. インストールを開始するには、[インストール] をクリックします。

Veritas Desktop and Laptop Option

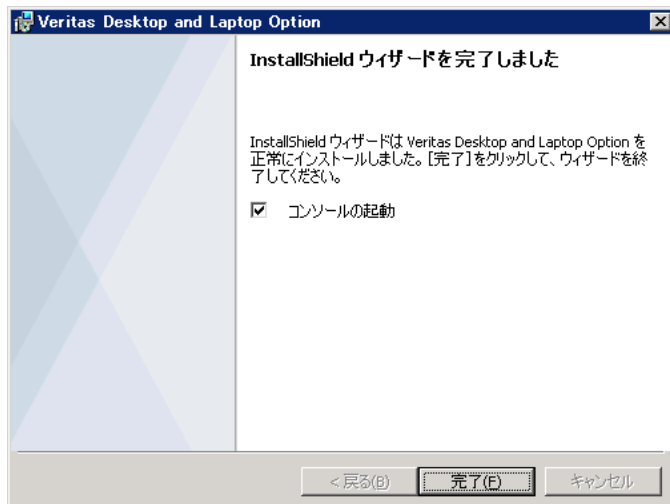
プログラムのインストールの準備完了
ウィザードでインストールを開始する準備ができました。

インストールを開始するには [インストール] をクリックします。

インストールの設定を表示または変更するには [戻る] をクリックしてください。[キャンセル] をクリックすると、ウィザードを終了します。

< 戻る(B) **インストール(I)** キャンセル

16. インストールが完了したら、[完了]をクリックします。



DLO サーバコンポーネントがインストールされたら、DLO 管理コンソールの初回起動時に、リカバリパスワードウィザードが表示されます。管理者は必ずリカバリパスワードを設定しなければなりません。

リカバリパスワードを設定しておくことで、管理者はバックアップしたデータを取得できます。緊急時には、ポイントインタイムデータベースと格納場所を使用してデータをリストアでき、DLO 管理サービスを起動して実行する必要はありません。リカバリパスワードの設定については、[こちら](#)で「Veritas デスクトップおよびラップトップオプション管理者ガイド」のリカバリパスワードの設定のセクションを参照してください。

Veritas DLO の設定

このセクションでは、管理者が Veritas DLO を設定するために必要な詳細情報について説明します。

DLO 管理コンソールの初回起動時に、「デスクトップおよびラップトップオプションの設定ウィザード」のフローが自動的に表示されます。ポップアップウィンドウを閉じ、次の手順に進みます。このドキュメントの範囲内では、DLO の手動設定について説明します。

DLO の設定手順は、以下のセクションで詳しく説明します。

- [DLO サーバのセットアップの設定手順](#)
- [BOI 機能を設定する手順](#)
- [デスクトップエージェントの配備](#)

DLO サーバのセットアップの設定手順

DLO を機能させるには、以下の手順を同じ順序で実行してください。

1. DLO 管理サーバに重複排除サーバを追加します。
2. DLO ストレージロケーションを追加します。
3. プロファイルを作成し、設定します。
4. プロファイルを作成するユーザーを設定します。

各設定手順の詳細は次のとおりです。

手順 1 - DLO 管理サーバに重複排除サーバを追加します

重複排除サーバはバックアップファイルの重複排除を管理します

重複排除サーバの追加方法

1. Veritas DLO 管理コンソールを起動します。
2. DLO ナビゲーションバーで、[セットアップ] をクリックします。
3. 次のいずれかの方法で、重複排除サーバを追加します。
 - [設定] ペインで、[Dedupe サーバ] を右クリックし、[新規 Dedupe サーバ] を選択します。
 - [タスク] ペインの [設定タスク] の下にある [新しい重複排除サーバ] をクリックします。

手順 2 - DLO ストレージロケーションを追加します

ストレージロケーションは、ユーザーデータを保存するネットワーク上の場所を決定します。ストレージロケーションは、DLO 管理サーバと同じドメイン内または管理サーバのドメインと信頼関係にあるドメイン内に存在するようにします。

DLO ストレージロケーションを作成する方法

1. DLO ナビゲーションバーで、[セットアップ] をクリックします。
2. 次のオプションの 1 つを選択して、新規の DLO ストレージロケーションを作成します。
 - [設定] ペインの [ストレージロケーション] を右クリックして、[新規ストレージロケーション] を選択します。
 - [タスク] ペインの [設定タスク] の下にある、[新規ストレージロケーション] をクリックします。
3. 次の表に示す適切なオプションを選択します。

項目	説明
コンピュータ名	コンピュータ名を入力するか、管理者がストレージロケーションを作成するコンピュータを参照します。
パス	ストレージロケーションを作成するコンピュータ上の場所を参照または入力します。 <i>注：ストレージロケーションは、DLO 管理サーバと同じドメイン</i>

	内または管理サーバのドメインと信頼関係にあるドメイン内に存在するようにします。
ストレージロケーションの名前	新しい DLO ストレージロケーションの名前を入力します。名前には次の文字は使えません。 \"@#\$%^&*()=+ /{}[]'
重複排除プロパティの割り当て	自動モードを選択することで、重複排除ストレージロケーションを割り当てます。
自動	自動モードでは、DLO ストレージロケーションと重複排除ストレージロケーションはどちらも、事前に指定した同じストレージロケーションパスに作成されます。重複排除ストレージロケーションは、デフォルトの重複排除ストレージプールに割り当てられます。管理者が自動モードを初めて選択するとき、重複排除ストレージロケーションのユーザークレデンシャルが提供されます。 注：ただしセキュリティ上の理由により、重複排除ストレージロケーションからデータの読み取りや書き込みを行う必要があるユーザー全員に対して、重複排除ストレージロケーションに対する読み取り/書き込みアクセス権は付与されません。代わりに、重複排除ストレージロケーションの作成時に、管理者が「重複排除ストレージロケーションのアクセスクレデンシャル」と呼ばれる新しいユーザーアカウントを設定します。これは、低権限レベルのドメインユーザーアカウントであり、Desktop Agent が重複排除ストレージロケーションにアクセスするために使用します。クレデンシャル」は以下の通りになります: DomainName\UserName 管理者権限を持つユーザーアカウントを、重複排除ストレージロケーションへのアクセスクレデンシャル」として設定することはできません。

4. [OK] をクリックします。

ストレージロケーションのプロパティ

ストレージロケーション
コンピューター名 (C):
WIN-5MAJI06AHT

パス (P):
E:\Storage-SL\Storage-SL-SL

ストレージロケーションの名前 (N):
Storage-SL-SL

☐ Dedupeプロパティを割り当ててください。

Dedupe サーバー
DedupeServer

重複排除ストレージロケーション (D)
Default: Storage-SL-D-SL

☒ 自動モード ☐ 手動モード 作成中...

Edge Server: ID Server
[NOT DEFINED]

概要
このストレージロケーションに割り当てられたユーザーは、次の場所およびフォーマットで作成されたユーザーデータフォルダにデスクトップデータをバックアップします。
\\WIN-5MAJI06AHT\Storage-SL-SL\%USERDOMAIN%\%USERNAME%

OK キャンセル ヘルプ (H)

手順 3 - プロファイルを作成、設定します

プロファイルを使用して、類似したユーザーの特定グループの設定をカスタマイズします。たとえば、非常に専門的なユーザーのグループはバックアップ選択項目とスケジュールを修正するオプションを必要とすることがあります。一方、経験が少ないユーザーは完全自動化されたバックアップサービスを必要とすることがあります。

バックアップするファイル（バックアップ選択項目）、ファイルのバックアップ時期（スケジュール）、デスクトップユーザーが Desktop Agent（ユーザー設定）と対話するレベルを決定するプロファイルを作成します。

新建配置文件

一般 | バックアップ選択項目 | ユーザー設定 | スケジュール | オプション | 接続ポリシー | 復元のスロットル | バックアップのスロットル

プロファイル名(P):

説明(D):

☒ このプロファイルを有効にする(E) ☒ Dedupe を有効にする(N)

☐ BOIを有効にする ☐ VIPプロフィール

ストレージの制限

☐ ネットワークユーザーデータフォルダを次に制限する (MB)(T)

☒ 根拠レベル ☒ ユーザーレベル

☒ デスクトップユーザーデータフォルダを有効にする(U)

☒ デスクトップユーザーデータフォルダを次に制限する(K)

☐ 全ディスク容量に対する割合 (%(C))

☒ サイズ (MB)(M)

デフォルトのデスクトップユーザーデータフォルダのパス

デフォルトのデスクトップユーザーデータフォルダのパスは、ユーザーのローカルアプリケーションデータのパスです。新しく配置するエージェント用にこの場所を上書きするには、次のオプションを有効にして新しいパスを入力してください。

☐ デフォルトのデスクトップユーザーデータフォルダのパスを上書きする(O)

ロールバック復元

☐ ロールバックウィンドウを構成(F)

過去のバージョンファイルを維持(E) 日

プロファイルでは、管理者は次の項目を設定できます。

- バックアップファイルおよびフォルダの選択項目
- デスクトップおよびネットワークのユーザーデータフォルダの格納制限
- バックアップスケジュール
- デスクトップユーザーが Desktop Agent と対話するレベル
- ログオプション
- バックアップと復元の操作のネットワーク帯域幅の使用率オプション
- バックアップの重複排除

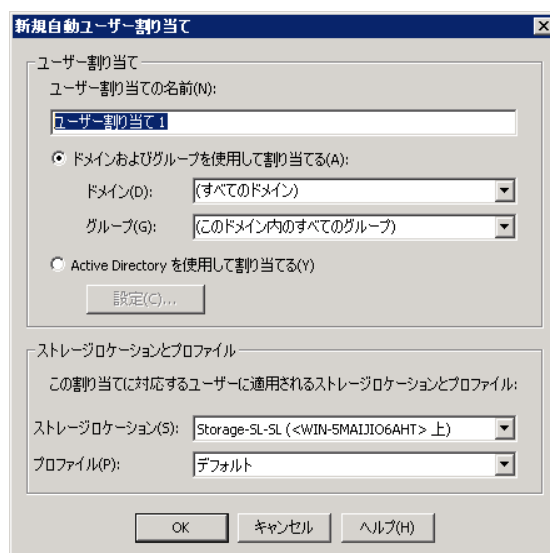
手順 4 - プロファイルを作成するユーザを設定する

ユーザーは、プロファイルに手動で追加することも、管理者がこれを行う自動ユーザー割り当

てを作成することもできます。

手順 4a - 自動ユーザー割り当てを作成する

ストレージロケーションとプロファイルを新しいユーザーに自動的に割り当てるために、自動ユーザー割り当て (AUA) を作成します。管理者がドメイン内のドメインとグループを選択すると、選択したストレージの場所とプロファイルがそのグループ内のすべてのユーザーに割り当てられます。



手順 4b - ユーザーを手動でプロファイルに追加する

管理者は、AUA を使用せずに、DLO へのユーザーの追加と、それらのユーザーへのプロファイルとストレージロケーションの割り当てを手動で行うこともできます。この方法は、ユーザーデータの保存用にネットワーク共有がすでに存在する場合に特に便利です。個別にユーザーを追加することも、ユーザー名をリストからインポートして複数のユーザーを同時に追加することもできます。

新規ユーザー

☒ ユーザーを有効化(E)

ユーザー (ドメイン名\ユーザー名またはユーザー名@ドメイン名)(U):

User4

参照(R)...

プロファイル(P):

デフォルト

デフォルト

ユーザーデータフォルダ

ネットワークユーザーデータフォルダとして既存のフォルダを選択するか、またはこの新しいユーザーのストレージロケーションを選択してください。

☐ ネットワークユーザーデータフォルダ(N):

参照(R)...

☒ ストレージロケーション(Q):

Storage-SL-SL (<WIN-5MAIJIO6AHT> 上)

OK

キャンセル

ヘルプ(H)

インターネット上のバックアップ (BOI) を設定するための手順

このセクションでは、BOI 機能を設定するための詳細を管理者に提供します。

前提条件セクションで説明したように、BOI 設定を構成するには、信頼できる CA から調達された SSL 証明書が必要です。しかしながら、製品評価の場合、BOI 機能の評価用として組み込み式の自己署名証明書が DLO インストーラーパッケージに含まれています。本文書内では、組み込み式の自己署名証明書を使用する BOI 設定について説明します。

注：このセクションでは、複数のエッジサーバが構成されている DLO セットアップの BOI を設定するための詳細は省きます。複数のエッジサーバのセットアップにおける BOI の設定については、BOI のセットアップと構成 ガイドを [こちら](#) で参照してください。

BOI を設定するためには、[DLO サーバのセットアップの設定手順](#)に加え、以下の手順を実行する必要があります。

1. DLO エッジサーバのパブリック IP を登録します。
2. SSL 証明書を登録したパブリック IP にマップします。
3. DLO エッジサーバおよび IO サーバを DLO ストレージロケーションにマップします。
4. DLO エッジサーバへの接続状態をテストします。
5. プロファイルで BOI オプションを有効にします。

手順 1 - DLO エッジサーバのパブリック IP を登録する

デスクトップエージェントがインターネット上で DLO エッジサーバにアクセスできるように、DLO エッジサーバ用のパブリック IP を登録します。

注：管理者が DLO エッジサーバのパブリック IP を登録した後は、DLO エッジサーバを配備する必要があります。以下に、DLO エッジサーバの配備方法に関するいくつかのオプションを紹介します。

- ファイアウォールで設定された NAT (動的または静的)を使用します。
- DLOエッジサーバは、非武装地帯 (DMZ) に置くことができます。
- すべての DLO エージェント要求を DLO エッジサーバ (企業ネットワークに常駐) にリダイレクトする非武装地帯 (DMZ) のリバースプロキシサーバを経由します。

手順 2 - SSL 証明書を登録したパブリック IP にマップします。

次のいずれかで SSL 証明書（Issued to : dlo.veritas.com）を登録済み公開 IP（DLO エッジサーバ）にマップします:

- a. ドメインネームサーバ（DNS）内

または

- b. DLO エッジサーバマシンのホストエントリアップデート。

注：これが DLO エッジサーバ上のホストエントリアップデートである場合は、さらにデスクトップエージェントマシン上で、以下のようにホストファイルを更新します。

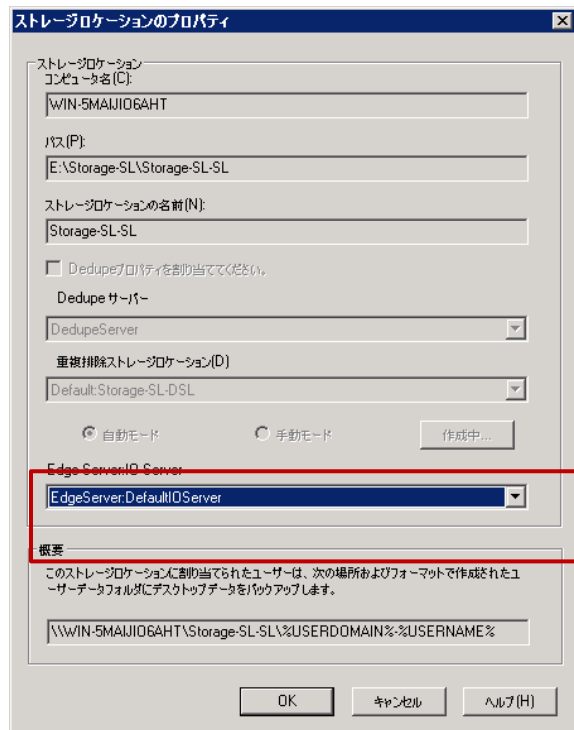
- パブリック IP を証明書名にマップします
 - このパブリック IP は、次のパスに存在する *EdgeServer.ini* ファイルの *SERVERNAME* エントリに存在します
 - <Install Path>\Veritas DLO\DLO\
 - この証明書名は、DLO エッジサーバ用のものです。(発行先: dlo.veritas.com)

例：<Registered Public IP> dlo.veritas.com

手順 3 - DLO エッジサーバおよび IO サーバを DLO ストレージロケーションにマップする

DLO エッジサーバと IO サーバは、新しいストレージロケーションを作成している間、または既存のストレージロケーションのプロパティを以下のように更新することによって、DLO ストレージロケーションにマップできます

- ストレージロケーションのプロパティ > エッジサーバ: IO サーバ



手順 4 - DLO エッジサーバへの接続状態をテストする

インターネットに接続されているマシンから以下の URL にアクセスして、DLO エッジサーバへの接続性をテストします。

- https://<Public_Edge_Server_IP>

手順 5 - プロファイルで BOI オプションを有効にする

BOI オプションは、既存のプロファイルで有効にすることも、次のように新しいプロファイルを作成することで有効にすることもできます

- プロファイル > 一般 > BOI を有効にする

The screenshot shows the 'New Configuration File' dialog box with the 'General' tab selected. The 'Profile Name (P)' field contains 'プロファイル 1'. The 'Description (D)' field is empty. The 'Options' section includes several checkboxes: 'Enable this profile (E)' is checked, 'Dedupe to be enabled (N)' is checked, 'BOI to be enabled' is unchecked and highlighted with a red box, and 'VIP Profile' is unchecked. The 'Storage Restrictions' section includes: 'Network user data folders to be restricted (MB)(T)' is unchecked with a value of 5000; 'Restrict level' has 'Root level' selected; 'Desktop user data folders to be enabled (U)' is checked; 'Desktop user data folders to be restricted (K)' is unchecked; 'Full disk capacity ratio (%) (C)' is 10; and 'Size (MB)(M)' is 1024.

デスクトップエージェントの配備

DLO サーバが構成されたら、保護する必要があるエンドポイントに DLO エージェントを配備します。デスクトップエージェントは、プルインストールまたはプッシュインストールで配備可能です。詳細は後ほど紹介します。

クライアントマシンからデスクトップエージェントをプルインストールする

企業ネットワークに接続されているクライアントマシンの場合、非 BOI または臨時的 BOI の配備の一環として、デスクトップエージェントパッケージをサーバインストールディレクトリから取得し、以下に詳述するようにクライアントマシンに個別にインストールできます。

1. デスクトップエージェントをインストールする必要があるクライアントマシンから、
\\<DLO_ServerName\IP>\DLOAgent パスにアクセスします。
2. DLO エージェントフォルダをクライアントマシンにコピーします。
3. デスクトップエージェントのインストールを開始します。

Web 復元ページからデスクトップエージェントをプルインストールします

社内ネットワークの外部にあり、インターネット接続を使用して接続されたクライアントマシンの場合、排他的 BOI または臨時的 BOI 配備の一環として、デスクトップエージェントパッケージを Web 復元ページから取得し、以下に詳述するようにクライアントマシンに個別にインストールできます。

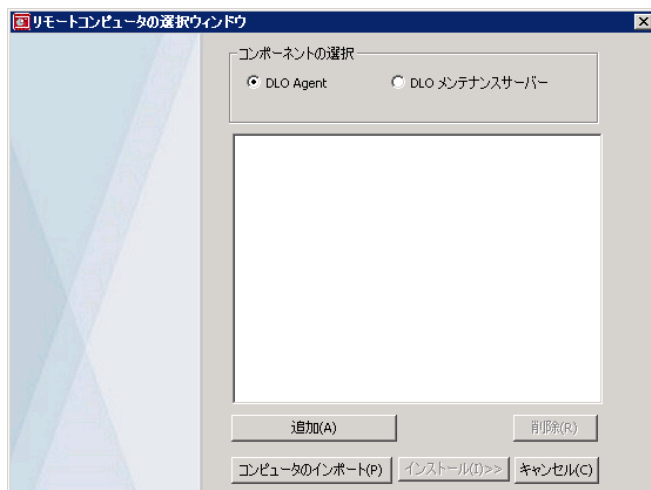
1. デスクトップエージェントをインストールする必要があるクライアントマシンから、DLO エッジサーバ URL https://<Public_Edge_Server_IP> を使用して Web 復元ページにログインします。
2. 左のペインのDLO エージェント には、DLO デスクトップエージェントパッケージをダウンロードするためのオプションがあります。
3. これらのファイルをダウンロードし、デスクトップエージェントのインストールを開始します。

デスクトップエージェントのプッシュ配備

企業ネットワークに接続されているクライアントマシンの場合、非 BOI または臨時的 BOI の配備の一環として、デスクトップエージェントは、以下に詳述するように、プッシュインストールによって個々のクライアントマシンまたは複数のクライアントマシンに直接インストールできます。

プッシュ配備の次の手順を実行します。

1. DLO 管理コンソールを起動します。
2. [ツール] で、[リモートコンピュータにエージェントとメンテナンスサービスをインストールする] を選択し、[次へ] をクリックします。
3. [エージェントのインストール] | [メンテナンスサーバからリモートコンピュータ] で、[DLO エージェント] を選択します。
4. [追加] をクリックします。
5. [リモートコンピュータ名の手動入力] で次を入力します。
 - a. 名前/IP アドレス: コンピュータ名を手動で入力するか、[参照] ボタンをクリックしてコンピュータ名を選択します。
 - b. ドメイン名: リモートコンピュータのドメイン名を入力します。
 - c. [OK] をクリックします
6. インストールを進めるためにドメインユーザーのクレデンシャルを入力します。このクレデンシャルにはクライアントマシンのローカル管理者権限があることを確認してください。
7. [OK] をクリックします。
8. [リモートコンピュータの選択] ウィンドウで、[インストール] をクリックし、インストールを続行します。



9. [完了]をクリックして終了します。

注：クライアントマシンにデスクトップエージェントのプッシュインストールを行う場合は、[「プッシュインストール用追加ポート」](#)の記載にしたがって、関連するポートが設定されていることを確認してください。Windows 8 以降のバージョンのクライアントマシンの場合は、リモートレジストリサービスが有効で実行されていることを確認してください。

デスクトップエージェントを Mac エンドポイントに配備する場合は、*DLO Mac* スタートガイドを [こちら](#)で参照してください。

バックアップと復元の検証

DLO エージェントがクライアントマシンに配備されると、管理者はバックアップジョブを設定して、エンドポイントを確実に保護することができます。

バックアップジョブの設定

バックアップジョブを設定するには、プロファイル作成に使用できる適切なオプションを選択します。本文書では、バックアッププロファイルに対して、[Dedupe の有効化]オプションが選択されています。エッジサーバと IO サーバが設定済みの場合は、[BOI の有効化]オプションを選択できます。

バックアップ選択項目を追加する方法

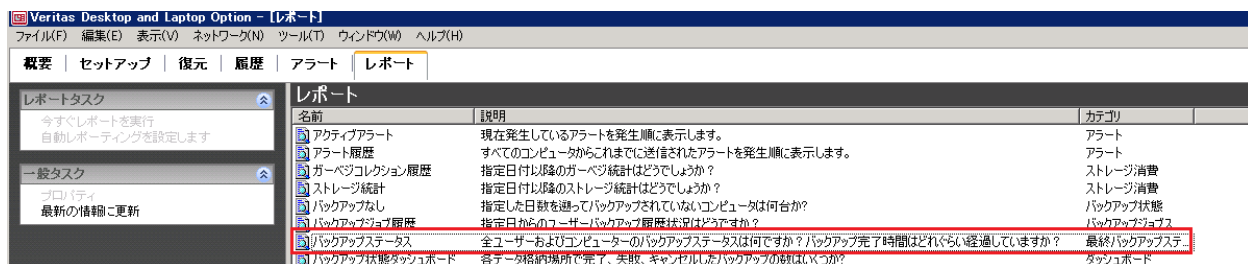
1. DLO ナビゲーションバーで、[**セットアップ**] をクリックします。
2. [**設定**] ペインで [**プロファイル**] をクリックします。
3. [**結果**] ペインで、管理者がバックアップ選択項目を追加するプロファイルを選択します。
4. [**タスク**] ペインの [**一般タスク**] の下にある [**プロパティ**] をクリックします。
5. [**プロファイルのプロパティ**] ダイアログボックスの [**バックアップ選択項目**] タブをクリックします。
6. 利用可能な一覧からバックアップの選択肢を選び、[**追加**] をクリックします。
7. [**OK**] をクリックします。

バックアップ検証

バックアップジョブが実行されると、管理者はバックアップ状態レポートからエンドポイントのバックアップ状態を確認できます。

バックアップ状態レポートを実行する方法は次の通りです。

1. DLO サーバコンソールを起動します。
2. [**レポート**] タブに移動します。
3. **バックアップ状態レポート**を実行します。



4. バックアップ状態レポートが表示されます。

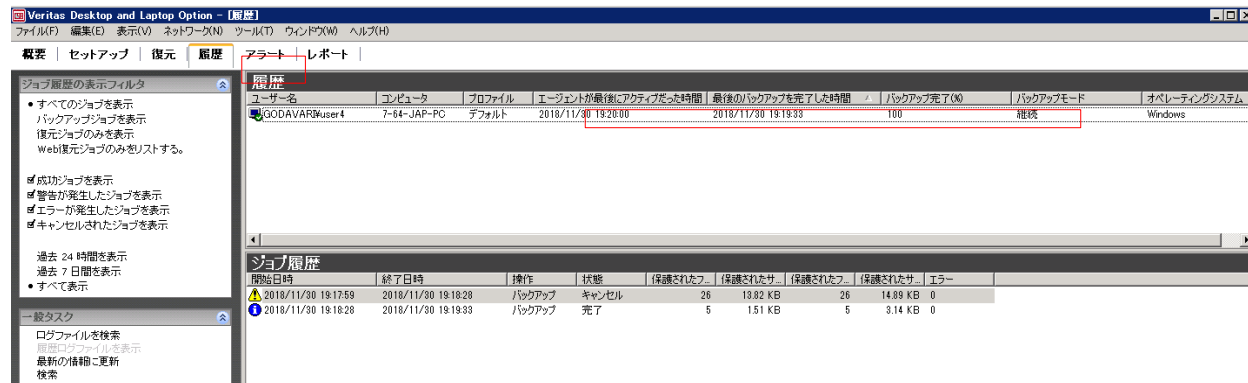
S. No.	ユーザー	マシン	プロファイル	エージェントが最後にアクティブになった時間	最後にバックアップが成功した時間	バックアップ選択のファイル	バックアップ選択のサイズ (GB)	バックアップ完了 (％ソースサイズに基づく)	バックアップ完了のファイル	バックアップ完了の経過時間 (時間:分)	バックアップ使用可能平均時間 (時間:分/日)
1	GODAVARIUser4	7-64-jap-pc	デフォルト	2018-11-30 19:19:59.593	2018-11-30 19:19:33.000	5	0.01	100	0	0:00	00:00

日付: 11/30/2018 7:23:49 PM

This report was generated by Veritas Desktop and Laptop Option. Veritas and the Veritas Logo are trademarks or registered trademarks of Veritas Technologies LLC or its affiliates in the U.S. and other countries. Other names may be trademarks of their respective owners.

ページ: 1

このレポートの主なフィールドの一部は、DLO 管理コンソールの [履歴と復元] タブにも表示されます。



バックアップ状態レポートの読み方

- エージェントが最後にアクティブだった時間 - この列には、デスクトップエージェントがサーバと通信できていた時の DLO エージェントの最後の有効時間が表示されます。コンピュータの DLO エージェントは DLO サーバと 15 分おきに通信して、そのコンピュータの状態を更新します。そのときレポートも更新されます。エージェントとサーバ間でネットワーク接続がある限り、この通信は継続し、最新の通信時間がこちらに表示されます。
- 最後のバックアップを完了した時間 - この列には、最後にデスクトップエージェントがユーザーのデータを完全にバックアップした時刻が表示されます。これは簡単に言うと、マシンが100%のバックアップ状態（バックアップ選択内のすべてのファイルがバックアップされている状態）を達成したタイムスタンプです。この列が空白の場合、コンピュータは完全なバックアップを一度も完了しておらず、最初のバックアップと解釈される可能性があります。
- バックアップ選択項目内のファイル - この列には、バックアップ選択項目で使用可能なファイルの総数が表示されます。一部のファイル拡張子がフィルタを使用してバックアップ選択から除外された場合、これらのファイルはカウントに含まれません。
- バックアップ選択項目のサイズ (GB) - この列には、バックアップ選択項目で使用可能なファイルの合計サイズが表示されます。。一部のファイル拡張子がフィルタを使用してバックアップ選択から除外された場合、これらのファイルはサイズ計算に含まれません。
- バックアップ進行状況 (ソースのサイズに基づく割合) - この列には完了したバックアップの割合が表示されます。進行状況は、バックアップ選択のファイルのサイズを元に測定されます。例えば、A、B、C、D という 4 つのファイルがあり、それぞれ 1、1、2、6 GB サイズのものをバックアップするとします。A、B、C のファイルのバックアップが完了すると、進行状況は 40% になります。
- バックアップ保留中のファイル - この列には、バックアップ対象に選択されたファイルのうち、まだバックアップが完了していないファイルの合計数が表示されます。上記の

例では、ファイル D はまだバックアップされていないため、カウント 1 が表示されます。

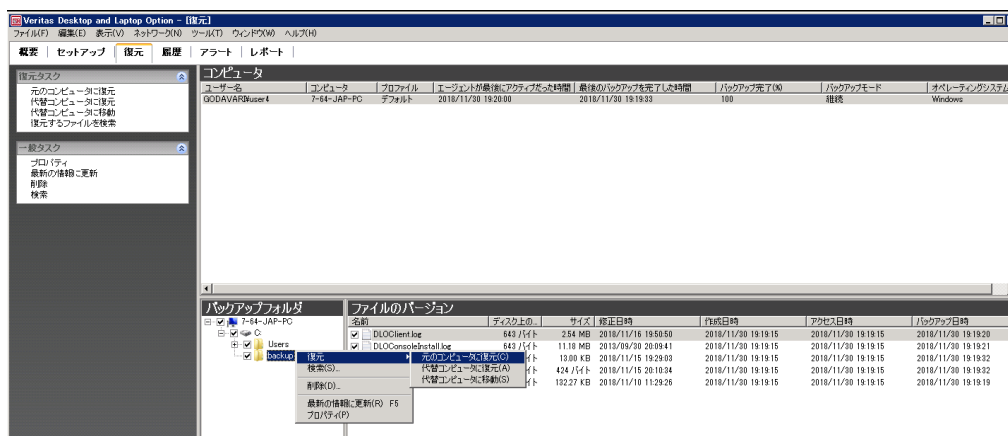
- バックアップ完了までの推定時間 - この列には、バックアップの完了に必要な残り時間が表示されます。これらの推定時間は、過去 7 日間にそのマシンでバックアップを取った時間をベースに計算されます。時間は、「時間：分」表記です。この列は DLO 8.0 SP4 バージョンで追加されたものであり、DLO 8.0 SP3 バージョンでは非対応となっています。
- 平均バックアップ時間 - この列には、デスクトップエージェントが 1 日でバックアップ可能な平均時間が表示されます。これは、過去 7 日間のエージェントの平均可用性に基づいて計算されます。時間は、1 日あたり「時間:分」の表記で示されます。管理者は、この情報とバックアップの完了予定時刻に基づき、前の列で、バックアップの完了時間を日数で計算できます。

注：バックアップ状態レポート、[履歴]タブ、および[復元]タブでは、[バックアップ完了]などのバックアップサマリーのフィールドは、一部のコンピュータで値「0」を反映することがあります。バックアップ完了のようなフィールドは、DLO 8.0 SP3 以前の Windows デスクトップエージェントバージョンと DLO 9.1 より前の Mac エージェントバージョンを持つコンピュータではサポートされていません。この問題を解決するために、エージェントをサポートされている最新のバージョンにアップグレードする必要があります。

復元の検証

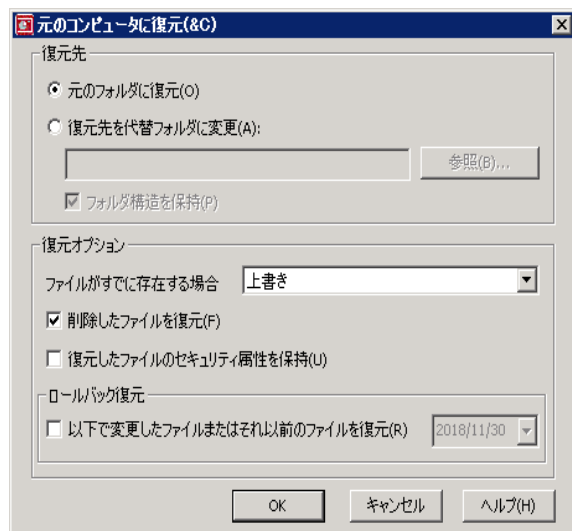
同マシン上の代替パスにファイルを復元します

- DLO サーバコンソールを起動します。
- [復元] タブに移動します。
- 復元が必要なユーザー - マシンの組み合わせを選択します。



- 必要なフォルダに移動し、ファイルを右クリックして[元のコンピュータに復元]を選択すると、下のダイアログが表示されます。

注：マシン全体の復元を評価する場合は、必ず 100% のバックアップを完了を達成したマシンを選択してください。



- [復元先を代替コンピュータのフォルダに変更]を選択し、代替フォルダパスを指定します。

注：このオプションを使用すると、復元サイズと復元されたファイルの数の検証が容易になります。

- [OK]をクリックして、クライアントマシンの復元の進行状況を開始および追跡します。

- 復元データの整合性を検証するには、バックアップ選択項目のファイル数やバックアップ選択項目のサイズ (GB) などの「バックアップ状態」レポートの列を見て、復元したフォルダのファイル数とファイルサイズを比較します。

不一致の場合は、次の原因による可能性があります。

- すべてのフォルダが復元対象として選択されていない
- バックアップ状態レポートの作成後に新しいファイルがバックアップされた。

DLO 文書の参照リンク

今回のリリース用の DLO 文書はすべて、[こちら](#)から入手できます。